

今週（3月22日から3月26日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、先週末からの強含んだ状況が継続し、積みの序盤ながらも高水準で推移した。調達側は地銀・証券業態を中心に▲0.03～▲0.002%、都銀業態の調達レートは▲0.035～▲0.02%程度であった。地銀を中心に調達ニーズが強い中、レート水準に大きな変化はなく、高水準での取引が中心となった。無担保コールO/N加重平均レートは概ね横ばい圏で推移した。ターム物に関しては、1Wのショートターム物で▲0.01～0.00%近辺で出会いが散見された。今週の資金需給は国債の大量償還日や交付金などがあり、全体的に余剰日が続いた。日銀当座預金残高は500～510兆円前後で推移した。

24日には新型コロナ対応金融支援オペが6M物でオファーされ、186,686億円の貸付が行われた（期落ちは99,869億円）。残高は25日時点で648,264億円となる見込み。

●レポ市場

今週のGC T/N物は出会い水準は概ね▲0.100～▲0.080%程度であった。23日のT/N（24-25日）からレート水準が若干切り下がった。

SC個別銘柄では2Y410～422、5Y140～146、10Y345～361、20Y170～175、30Y59～69、40Y10～13などのカレント近辺の銘柄にビッドが多くみられた。

●短国市場

今週の短国市場は、22日の短国オペの応札額の多さや、年度末で買いを控える動きもあってか、やや軟調な推移となった。3M物は▲0.105～▲0.95%、6M物は▲0.115%近辺、1Y物は▲0.130%近辺での出会いが見られた。

22日に実施された短国買入オペは、前回から5,000億円増額の15,000億円でオファーされ、平均落札利回較差+0.005%、按分落札利回較差+0.003%と、在庫調整の売りからか、弱めの結果となった。

24日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.107～▲0.106%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.1117%、按分落札利回▲0.1098%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは▲0.115%出会いと、堅調に推移した。

26日に実施された3M物の入札は、WI取引において▲0.103～▲0.100%での出会いが見られる中、平均落札利回▲0.0990%、按分落札利回▲0.0930%と、やや甘めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、出会いは見られなかったものの、▲0.090%近辺と、軟調な推移となった。

●CP市場

今週のCP発行市場は、機械や不動産業態で大型の発行が見られたほか、電力・ガスや卸売、陸運業態でもまとまった額の発行が見られたが、償還総額1兆9,000億円程度に対して、発行総額6,000億円程度と、大幅な償還超のマーケットとなった。四半期末要因により、3月末を跨ぐ発行は少なくなっている。今週の市場発行残高は概ね24兆1,000～2,000億円の推移となった。発行レートについては、新型コロナ金融支援オペの担保確保の買いニーズからか、対象となる銘柄についてはその大半がマイナス圏で推移しており、特に発行頻度の低い稀少銘柄に関しては、過去最低水準でのマイナスの買いも見られた。

26日にはCP等買入オペが、事前予定6,000億円から2,000億円減額され、4,000億円でオファーされた。現在新型コロナ金融支援オペの担保ニーズが強いことに加え、今回のオペは応札対象が期越えに限定されるため、応札額が積み上がらない展開が予想されたからか、結果は平均落札レート▲0.044%、按分レート▲0.064%と前回（平均▲0.027%・按分▲0.045%）比で平均・按分ともに低下した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 （億円）
3/22（月）	29,174.15	0.075	108.90	△ 0.014	△ 0.087	4,966,300
3/23（火）	28,995.92	0.075	108.85	△ 0.014	△ 0.093	4,995,700
3/24（水）	28,405.52	0.065	108.63	△ 0.015	△ 0.096	4,996,000
3/25（木）	28,729.88	0.080	108.88	△ 0.015	△ 0.099	5,108,900
3/26（金）	29,176.70	0.075	109.30	△ 0.014	△ 0.092	5,111,500

来週（3月29日から4月2日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
3/29 (月)	決定会における主な意見(3月18・19日分 8:50)			
3/30 (火)	2月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 2月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 2月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)	2Y 30,000億円 4/1発行		1月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 3月の米CB消費者信頼感指数
3/31 (水)	2月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 2月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)			3月のシカゴPM景況感指数 10-12月期の英GDP確報値 3月のユーロ圏消費者物価指数速報値
4/1 (木)	3月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50)	10Y 26,000億円 4/2発行	交付税借入 11,000億円 4/9借入	2月の米建設支出 3月のISM 製造業景況指数
4/2 (金)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 3月のマネタリーベース(日銀 8:50)	TB3M 67,000億円 4/5発行		EURO、London祝日(Good Friday) 3月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給予因
3/29 (月)	▲ 500	36,100	35,600	国債買入 CP買入 国債補充		8,900	8,400	44,000	年度末諸払い 財政融資資金の回収 TB3M発行▲67000償還67900
3/30 (火)	0	30,000	30,000				0	30,000	年度末諸払い
3/31 (水)	800	30,700	31,500	CP買入		4,000	4,000	35,500	年度末諸払い
4/1 (木)	0	▲ 33,000	▲ 33,000				0	▲ 33,000	2Y発行▲30000償還5400
4/2 (金)	0	▲ 30,000	▲ 30,000				0	▲ 30,000	普通交付税 地方特例交付金 税・保険料揚げ 10Y発行▲26000
週間合計	300	33,800	34,100	—	▲ 500	12,900	12,400	46,500	

3/29は日銀予想、3/30以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、年度末を跨ぐ週となる。年度末はビッドが減少すると見られる。レート水準は、年度末を除き、週間を通して概ね▲0.01%台で横ばいが続くと予想する。レポ市場は、3月末に向けた動きが注目される。短国市場は、2日に3M物の入札が実施予定となっている。需給やレート水準を含め、市場動向が注目される。また、30日に実施が予想される短国買入オペのオファー額にも注目したい。CP市場は、3月末の市場残高は大幅に減少すると見込まれる。4月以降の発行再開の動きがどの程度出てくるか、注目したい。

主要なイベントは、国内では1日に3月調査の日銀短観、海外では31日に3月のユーロ圏消費者物価指数速報値、2日の3月の米雇用統計が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入